

WACATE Magazine Vol.3

✿ ご挨拶 ✿

こんにちは。WACATE-Magazine 編集部です☆

立春を過ぎ、三寒四温を過ぎて春に入ろうとしておりますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？
3月といえばやっぱりひな祭りですね♪

お内裏さまとお雛さまー♪

実は、本来は「内裏雛」という一対の人形を指すんですけど、なんでも、「うれしいひなまつり」が大ヒットしたおかげで皆さんが本来とは違う覚え方をしてしまうそうです。

日本語って難しいですね。テスト業界でもそうです。

2月はJSTQB Foundation Levelの試験がありましたね。

読者の方で受験された方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

用語集の言葉をもっと一般的にして、言葉による誤解が少なくなるといいですね♪

さて、3月にはどんなイベントが待っているのでしょうか？イベント情報もチェックしてください☆



✿ vol.3のお品書き ✿

p.01 ご挨拶/お品書き/WACATE TOPICS

p.02 【特集】 JaSST' 09 Tokyo でやらかしてきた！！

p.08 【連載】 ゆもつよの「はい、こちらテストング事業部」

p.09 【一般】 コンテキストワークショップ

p.12 【一般】 JaSST' 09 ベストスピーカー賞への道のり

p.14 【投稿】 若手はイベントでどんどん話そう語ろう～デブサミ発表記～

p.15 【一般】 エンジニアと共につくるフリーペーパー [EM ZERO]

p.16 【リレーコラム】 せんばいにきく。

p.17 【リレーコラム】 ワカテにきく。

p.18 【トピックス】 SoftwareTestTopics

p.19 【連載】 池田暁の「ミュージカルに恋して」

p.20 【不定期 連載】 コヤマンの「補給戦線異状なし！」

p.21 【リレーコラム】 WACATE-Blog 出張所

p.22 【連載】 源太郎の「開運ソフトウェアテスト占い」

p.23 お知らせ/編集後記/おくづけ

✿ WACATE TOPICS ✿

[News] [JaSST' 09 Tokyo](#) のレポートがアップされました。

[News] マナスリンク社「[EM ZERO vol.3.1](#)」に WACATE 参加者による紹介記事が掲載されました。

JaSST'09 Tokyo で、やらかしてきた!! Report-1

写真撮影協力：JaSST' 09 Tokyo 実行委員会

◆はじめに

われわれ、WACATE-Magazine 編集部は、皆さんの記憶にも新しい「JaSST' 09 Tokyo」(2009年1月28日～29日、目黒雅叙園)へ数名のスタッフを潜入させることに成功。そして、どこよりも多くのセッションを”網羅した”レポート記事を作成し、わずか2日後の1月31日に掲載することができました。

しかしながら、ひとつのセッションについてだけはレポート記事が掲載されていませんでした。

それは、

テストのやりがい
～情熱やりがいワークショップ～
(by WACATE 実行委員会)



です。

本稿では、このWACATEセッションの全貌を「JaSST' 09 Tokyo でやらかしてきた!!」と題して、レポートしたいと思います。当日参加された方はこの記事を読みながら振り返っていただき、残念ながら参加できなかった方は、記事や写真から当日の内容や空気を感じ取っていただければと思います!

◆開場前、「初めての経験に緊張と不安いっぱい!

朝10時の開始を前に、スタッフ全員でセッション内容の準備やりハーサル、役割分担の確認などを行っていましたが、なにぶんこのようにパネリストとして壇上に上がるのが初めての三人。特に落ち着きがありません。

「ちゃんと思ったことを話せるだろうか」

「参加者はミニワークをこなしてくれるだろうか」

「参加者は来てくれるだろうか」

といった不安が渦巻いていました。また、スーツ姿でというところも緊張する原因になっていました。

◆開場! 60名もの参加者が集う!

落ち着かないながらもリハをこなしていると、いつの間にか9時30分。いよいよ開場です!

朝一番のセッションにも関わらず、どんどん席が埋まっていきます。参加者は思いのほか女性の比率が高かったようです。WACATE に関しても回を重ねるごとに女性参加者が増加しており、このJaSSTの参加者においても男にかしら共通するものがあるのかもしれませんが。



ぞくぞくと着席する参加者の皆さんですが、座席には前もって実行委員により用意された3枚の付箋紙が用意されています。「はて、これから何をやるんだろう?」という参加者の空気が部屋に満ちていきます。参加者は60人強。いよいよ、WACATEセッションの開幕となります!

◆池田委員長の挨拶、体操そして動画

まずはWACATE実行委員長である池田さんからの挨拶です。ですが、開始時はどうにも雰囲気堅い。その雰囲気を感じ取った池田さんは「朝も早くて眠いですし、緊張をほぐすために柔軟体操でもしてみましょうか」



全員で簡単にストレッチを行います。どことなく、緊張もほぐれてきたようです。WACATEでも1日目の最初に「ポジションペーパー」を使ったアイスブレイクを行います。これにより、よりリラックスしてワークショップに取り組むことができます。今回は、簡単な柔軟体操が同じような効果をもたらしてくれました。百戦錬磨だなあ、池田さん。

JaSST'09 Tokyoで、やらがいできた!! Report-2

実はここでWACATEについての理念や活動内容をスライド中心に説明する予定でしたが、急遽リハーサルで内容変更。去年12月に開催された「WACATE 2008 冬」を収めた5分程度のビデオを参加者に観てもらうことに。



言葉での説明よりもすう〜っと参加者の頭に”WACATEとはこういうものだ”というメッセージが入っていったように思います。「どの写真をとっても、みんな笑顔なんですよね〜」という池田さんの感想が印象的でした。

◆みなさんの”やらがい”って、なんですか？

一通りWACATEの説明が終わったところで、いよいよミニワークです。参加者の皆さんに手と口をたくさん動かしてもらおう時間です。

「みなさん、テストのやらがいってなんですか？」

「自分がやらがいを感じるのはどんなときですか？」

手元に用意された3枚の付箋紙に”自分のテストのやらがい”を書いてもらいます。なかなか筆が進まない参加者もいたり、逆にたくさんの字を書き込んでいる参加者も。TEFのオレンジ色のジャンパーを着たにしさんが巡回をしている姿は、まさに授業風景。



目立ってましたね。

会場は、付箋紙へ書き込む音だけ、なんだか落ち着いた雰囲気にも包まれました。ちなみに、付箋紙を使った個人ワークというのはWACATEワークショップでも何度か行われてるんですよー。

◆隣同志で”やらがい”を共有しよう！

与えられた3分間はあっというまに過ぎ去りました。しかしながら、ただ書いただけじゃもったいない。せっかくだから周りに”やらがい”を伝えてみよう！そんなわけで、今度は口を動かします。

付箋紙に書き出した自分の”やらがい”を近くの方に説明し、共有します。これは、口に出して説明することで”やらがい”をもっと意識してもらおうことと、他人の思っている”やらがい”を聞くことで、自分が気づいていない、新たな”やらがい”に気づいてもらうという目的があります。



池田さんの合図で会場が熱気に包まれます。今度はにしさんだけではなく、他のWACATE実行委員も参加者の周りを巡りながら、時には話に参加したりもしていました。会場は一気に和み、笑顔があふれてきました。まさに冒頭で池田さんが口にした”笑顔”ですね。

◆WACATE 実行委員による”やらがい”ミニパネル

ここで一旦小休止、モデレータをにしさんに交代です。今度はWACATE実行委員がパネリストとなり、今までのWACATEの分科会で聞かれた”やらがい”に関する声を取り上げながら深く議論していきます。にしさんの呼び込みで

ベテラン

松尾谷 徹 さん (デバッグ工学研究所)

村上 くにお さん (WACATE 実行委員会)

若手

山崎 崇 さん (WACATE 実行委員会)

小山 竜治 さん (WACATE 実行委員会)

という面々が登壇。

JaSST'09 Tokyoで、からかしてきた!! Report-3

松尾谷さんは言わずと知れたテストの教祖、PS（パートナー満足）やチームビルディングの賢者です。村上さんは、気持ちは”若手”、本職ではリーダーを担っています。山崎さんはパッケージ系のまさに若手（まじめ）エンジニア。小山さんはビジネス系製品のリーダーであり、起立して自己紹介を行うほどの礼儀を重んじるエンジニア。モデレータのにしさんも含めて、とても興味深いディスカッションが聞けそう。



◆個人で感じる”やりがい”、”感染源”になろう

自分の仕事が「クリエイティブな作業」であったり、仕事をする相手にとって「ありがとう」を言ってもらえる仕事なんだ、という想いが個人のやりがいにつながる、と考えている山崎さんと村上さん。そういうパネリストを見て、にしさん曰く「(みなさんは) 笑顔の”感染源”になってるんだね」と例えていました。



そういえば、WACATE 参加者の間でもそうですし、WACATE を運営する実行委員会でもそういった”笑顔”や”やりがい”の伝播を感じます。松尾谷さんはそういった影響力・感染力を「プラスのストローク」と表現して、この「プラスのストローク」が3倍、5倍と増幅できる組織はモチベーションを維持できる、と発言されていました。

◆組織で感じる”やりがい”

～”ありがとう”は魔法のコトバ～

自分の周りでは「マイナスのストローク」が多いのが課題だ、という山崎さん。「プラスのストローク」を増やすには、村上さんは「”ありがとう”という魔法の言葉を使って、相手の仕事を認めること」から始めているとのこと。小山さんは「試練は乗り越えられる」という信念を持ちつつ、周囲に楽しさを伝染させていくように心がけており、にしさんも「小山さんの言葉は響いた」と。実は小山さんを WACATE 実行委員に誘ったのは僕なのですが、こういった小山さんの信念をほんの少し感じられたからなのかも？



松尾谷さんはまとめとして、「チームは仲良しグループではないこと、寛容でなければ創造性も生まれない」ということを会場の参加者に伝えていました。最後にバシッと始めていただきました。



JaSST'09 Tokyoで、やらがしてきた!! Report-4

◆会場の皆さんの声を紹介

ここで池田さんが再登場。実は、パネルが盛り上がっている間に参加者の書き込んだ付箋紙を回収し、会場の外で模造紙に貼り付けていたのでした。これを使って会場の参加者が思う”やらがい”を全員で共有します。



いくつか紹介すると、

- ・テストを通じてスキル向上できた。
- ・テストが楽しいと部下が言ってくれた。
- ・バグを指摘してくれて助かったよと言ってくれた。
- ・部下が育ってくれたと感じた。
- ・バグを狙ってちゃんとあたった。

といった意見がありました。

「(やらがいを) 実感するのって重要ですね」とにしさん。



◆会場の人々からの相談

ここで、会場の人々からの質問タイムです。

「飲み会が不満や愚痴の言い合いにならないようにするには？」という相談に対して、若手は「いい方向に」話を持っていくことが大事、と。逆にベテランは一度不満は全て聞いてあげることも重要で、思ったことが言い合える文化というのも大事ですよ、という提案ができました。

また、「一度のきっかけでコミュニケーションが取れなくなった部下をどうしたらよいか？」という相談がありました。様々な意見が出ましたが、最後に「直接ではなく誰かを介して間接的に意思疎通を試みたらどうか」というアドバイスがありました。自分一人で無理に直接解決しないほうがいいということですね。

◆”やらがい”を見つけましょう、広めましょう!

セッションのまとめとして、ラストはにしさんが会場の参加者に、

「新しい”やらがい”を見つけしてほしい。

”やらがい”を見つけたら、やらがいエコマークをつけて周囲に教えてあげてください」



という提案をしていました。

このセッションは、参加者に自分の思っている”やらがい”を意識してもらい、そして周りの人と共有し、新しい”やらがい”を見つけてもらおうというものでした。

参加できなかった方々もこのレポートを読んで、「やらがい」について考えてみてはいかがでしょうか？そうすることで、いつの間にか自分が”感染源”となり、チームをいい方向に導けるかもしれません。

◆最後に

以上、駆け足ですがレポートさせていただきました。今回 JaSST で時間をいただき、実行委員一同大変いい経験をさせていただきました。また、今まで WACATE を知らなかった方々にも、活動を知っていただきました。今後も年2回のワークショップ以外にも機会があれば、積極的に飛び出していきたく考えています。

それにしても本当に楽しかった～！(かせ)

JaSST'09 Tokyoで、からかしてきた!!

Lightning Talks

◆はじめに

WACATE-Magazine 編集部、加文字でございます。Vol.2で「JaSST'09 Tokyo」のライトニングトークス (以下LT) セッションのレポートをトーカーとして参加した側から書かせていただきました。今回は前回書き切れなかった募集のお知らせから、如何にして自分がLTトーカー参加まで至ったか、語らせていただきます。

◆12月10日:

TEFにLTトーカー募集のお知らせが流れる。世の中に出てない自分の考え(研究)を外でぶちまけたいなーとふと思ひ、「とりあえずやってみるか」の精神で参加を考える。

◆12月11日:

一応、話そうとしているテーマの確認をし、ポスの西先生の許可(好きにやってこいの一言ですが。)を頂く。

◆12月中旬:

WACATE 2008 冬の準備で手いっぱい。膨大な印刷物にまみれながら、これまでの研究資料の整理を行う。

◆12月20日:

WACATE 2008 冬初日。担当セッションの自己紹介でJaSST'08 TokyoのLTに出る予定と宣言。自分を追い込んでみる。

◆1月8日:

年末年始のドタバタもなんとか治まったので、LT担当者の方に参加申し込みメール送信。提出したトーク概要は以下でした。

トーク概要(250文字以内):

テストエンジニアにとって、自分の手のかかったテストスイートという名のテスト成果物達はわが子のように可愛いものである。バグ見逃しという名の非行に走らないかとハラハラし、品質を測り、抜け防止や実施ミス防止といった英才教育を行いたい。そして親バカとしては可愛いわが子の品質を示し、よそ様に披露したい。しかし、悲しいかな。わが子の品質を客観的に扱うことは、現状の親バカには困難なのであった。そこで今回はテストプロセスにおけるテストスイートの「作業のしやすさ」と「設計の良さ」に着目し、その品質特性を提案する。

◆同日夜:

LT申込受付のメールが返ってくる。ワクワクとドキドキが入り混じったような心情。

◆1月中旬:

資料作りに入るが、2つのLTの壁に突き当たる。1つ目は**発表5分の壁**。性的にあれもこれも結びつけて詰め込んでしまうタイプなので、初期のころは15分とかかかってしまいました。2つ目は**自由度の高さの壁**。自分の好きなことを好きなように言いたいというなんでもありなスタイルであるが故に、定型といったものがないのです。

出来るだけ聞いていただく皆様に興味深く、面白くなるようにと構成等を思考錯誤しました。

◆1月27日(前日):

資料を固定してしまい、ひたすらストップウォッチ片手に練習。申し込んだ日のドキドキとワクワクが共に二乗されているような心情。

◆1月28日(当日):

準備中の発表会場に出陣。これまで座るような機会もなかった前方の「講演者」席へと通される。「わーい、講演者用のミネラルウォーターうめえ。」と訳の分からないテンションの上げ方をしつつ、発表ファイルの提出と使用PCのレクチャーを受ける。発表がどうだったかはvol.2をごらんくださいm(_)_m。

前回書き切れなかったWACATE紹介は

「夏…楽しいデスマーチ。」

「冬…なんでもありなテスト業界大忘年会」

「WACATE-Magazine…夏と冬だけじゃさびしいので、テストなカオスマガジン」

という、言い得てるのか妙な紹介になってました。(笑)

◆最後に:

たかが、発表の査読も無い、5分間のLTです。されど、確かに自分にとっては「JaSST'09 Tokyo」での発表なのです。この0と1の差は非常に大きく、自分にとって成長できた素晴らしい体験でした。ちょっとでも、面白そうだなーと思っていただけた貴方、ぜひぜひ

「とりあえずやってみるか」

の精神で挑戦してみてください。

当日の発表資料に関しては、他のLT参加者の皆様の資料と一緒にJaSst公式サイトで公開されました。ちょっとでもご興味をもっていただけたならば、ぜひご覧いただければ幸いです。(かもんじ)

さて、JaSST' 09 Tokyo WACATE 実行委員会によるミニワーク&ミニパネル「情熱やりがいセッション」の解説とライトニングトーカーの話はいかがでしたでしょうか？

前号で我々のセッションについてまとめたかったのですが、いかんせんメッセージが多すぎて全て伝えきれぬものではなかったため、掲載を今回にさせていただきました。少し時間は経っていますが、参加された方には思い出していただけたでしょうか？

参加されていない方も、我々のメッセージと雰囲気は感じていただけたでしょうか？
伝わっていたら嬉しいです♪

今回 JaSST' 09 Tokyo への挑戦については、WACATE 実行委員にして JaSST 実行委員でもあるにしさんからの「JaSST やる？」という軽めの質問から始まりました。

あれよあれよという間に話が動き、実は WACATE 2008 冬の真っ最中にテーマが決まりました。

「とりあえずやってみようか。」から始まったのです。

以前から、WACATE 参加者のモチベーションの高さをどうにかして伝えることができないだろうかと思っていました。

どうか伝わってほしい、伝導してほしいという気持ちをこめて「情熱やりがいセッション」という名前をつけさせていただきました。

参加していただいた皆さんの笑顔を見ると、前に立って良かったな〜と心から思います。

では最後に、WACATE 実行委員会のパネリストから一言。

村上

「JaSST での WACATE セッションは、とても貴重な経験をさせていただきました。今回のような経験ができたのも、WACATE を支えてくださっている、皆さんのおかげだと思います。
本当に、ありがとうございます♪」

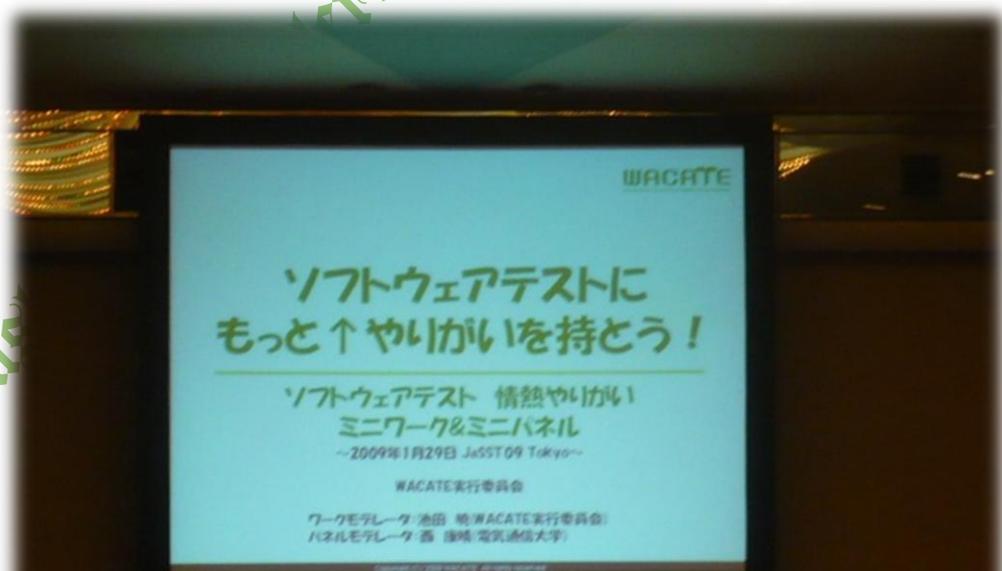
山崎

「メチャクチャ緊張しましたが、普段できない経験をさせていただいて、非常に楽しくもありました。
見に来てくれた方々に感謝です(^-^)」

小山

「誘ってくださったにしさん、惜しまぬ協力をしてくださった池田実行委員長、安達さん。優しく受け入れてくださった JaSST' 09 Tokyo 実行委員の皆様。イベント運営の皆様、WACATE ファンの皆様、JaSST' 09 Tokyo スタッフの皆様。WACATE 参加者の皆様。そして、セッションに参加してくださった皆様。本当にありがとうございました。
また皆様に会えることを心より祈っています。」

(こやまん)



新しいやりがいに出会えますように。

ゆもつよの「はい、こちらテスト事業部」

第1回 その「品質」はどの「品質」ですか？

著者：湯本 剛(YUMOTO Tsuyoshi)

メーカー系ソフトハウスで10年ほどテスト業務をした後、現在は豆蔵にてテストプロセス改善コンサル、テスト教育講師に従事。バブル世代の申し子であり、自他共に認める若手。だと思っていたら来月の誕生日で大台にのってしまうことが発覚。趣味は酒と子供とギター。



皆さん始めまして。湯本と申します。念願かなってWACATE-Magazineで連載を持つことが出来ました。よろしくお願ひします。

この連載ではどのようなことを書いていこうかと池田さんに相談したところ、なにか技術的なことについて書いたらどうかということになったので、いろいろ考えた結果、テストにかかわるいろいろな言葉について、**その意味って何なんだろう**ということを取り上げるのはどうだろうと思ひ立ちました。

奇しくも、JaSST'09東京のパネルディスカッションのための事前打合せではテストエンジニアのテクニカルコミュニケーションについて議論になったのでちょうどよかった次第です。

「**言葉の意味**」なんていうと非常につまんないというか、うんざりするかもしれませんが、実はとても大事なことです。複数人で仕事をしていく場合、(テストも大抵が複数人での作業ですが) **ちゃんとお互いが理解して仕事を進める事が出来るかは重要な成功要因**です。お互いに話を誤解してしまい、思ったような結果に結びつかないと、ものすごいストレスです。ソフトウェアエラーのほとんどは情報の伝達と変換のときの破壊、誤解、雑音に起因する(マイヤーズ)なんて名言もあります。

まずは第一回ということで、テストには欠かせない最も重要な言葉として、「**品質**」を話題にしたいと思ひます。この「品質」という言葉って非常に都合の良い言葉だと思ひませんか？

例としてよくある現場の例を思い浮かべてください。

Aさん：「私は、今回のリリースのため、その不具合を無理して修正すべきだと思ひません。これはかなりリスクな修正です。この不具合はとても簡単な回避策もあります。修正は次回のリリース時にまわしましょう。」

Bさん：「品質は大丈夫ですかね!？」

Bさんは品質という言葉を使って、自分の不安を表しています。Bさんは気づいていないかも知れませんが、Aさんの考える品質の良い製品を出荷したいという意見に不服を唱えています。Aさんは、**リスクを考えることによって品質に対する危機を説明**しましたが、Bさんは、**不具合を対応することによるコストまたはリスクにかかわらず、不具合をそのままにしておくことが品質的に不安であるという考えに固執**してしまっています。

もうひとつ例を挙げてみましょう。

Cさん：「顧客の業務上、この機能は絶対に必要になります。これは何よりも優先すべきです。もし十分に機能を実装する時間が不足していれば、段階リリースにして、この優先すべき機能を先にリリースし、次のリリースで残りの機能を提供しましょう。」

Dさん：「しかし、段階的リリースは、技術面・マネジメント面から見ても難しいですよ!それって品質的にどう思ひます?」

Cさんは品質にちゃんと関心があります(顧客の観点から)。Dさんは、内部のエンジニアとして働いている観点から品質を見ています。同じ品質という言葉でも、Cさんは**システムが目的に合致しているかという特性に着目**していて、Dさんは、**特定の問題ではなく漠然とした不安**で話っています。

ではもうひとつ、これはどうでしょう?

Eさん：「このプロジェクトは品質最優先で行きましょう!」

これを聞いた人は、何に注力するべきかわかるのでしょうか?もしくはEさんの考えていることと同じ特性をイメージできているのでしょうか?ある人は「どんなときでも使える」ことを思い浮かべるかもしれませんが、「非常に使いやすい」ことを思い浮かべるかもしれません。もしくは「設計がきれいで保守しやすい」ことを思い浮かべるかもしれません。

品質とは「**誰かの期待である(ワインバーグ)**」なんていいます。それはそのとおりだと思いますが、**都合よく使えてしまうという危険もはらんでいます**。何かを立てると何が立たないってことがあるからです。つまり「**どんな期待か**」がわからないと話にならないわけです。仕事をするときには、**どんな期待なのか?それはどの特性について話しているのか?をはっきりさせるようにしましょう**。そうすると何をテストするのか?そのテストの目的は何?なんて話もスムーズに出来ます。

ということで今回はここまで。次回は「**テストの目的**」を取り上げます。

コンテキスト発見ワークショップ実施報告(前編1)

小池 輝明 (S-open: ソフトウェア技術者ネットワーク)



■はじめに

WACATE 2008 冬で皆様のご協力いただきましたコンテキスト発見ワークショップですが、おかげさまで JaSST' 09Tokyo にて発表することができました。この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。当日皆さんにフィードバックのお約束をしました通り、コンテキスト発見ワークショップのなりたちから結果までを前編と後編の 2 回に分けて報告したいと思います。

このワークショップは S-open (ソフトウェア技術者ネットワーク) の SIG 一つ「感性 SIG」にて研究中のものです。感性 SIG はソフトウェア開発において、技術者の感性を高めことで高品質なシステム構に貢献できないかと考えています。その活動の中でコミュニケーションをテーマに今年度は活動してきました。

ソフトウェア開発におけるコミュニケーションの問題は名著の中でも取り上げられています。とくにブルックスの「人月の神話」の中では、開発チーム内のコミュニケーション工数を上げていることは、皆さんもご存じかと思えます。昨今の IT システムは、社会的影響度の増大、クラウドなど実行環境の多様化、分散された開発などで、専門性が進み、目的別に分業化も進んでいます。ソフトウェアテストも独立チームで行われることも、社外のリソースに頼ることもあるでしょう。こうした中で、コミュニケーションは益々重要性が高まっていると言えます。

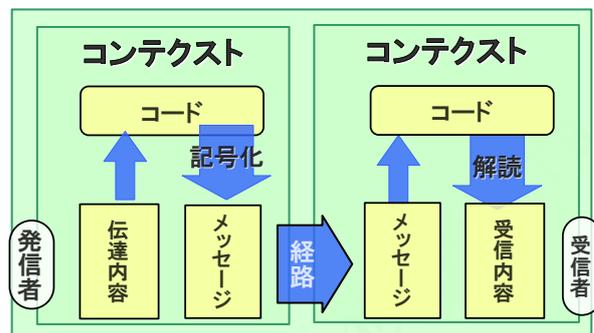
■コミュニケーションモデルと意味ネットワーク

コミュニケーションがソフトウェア工学の中で語られることは少ないのですが、感性 SIG では哲学的、心理学的知見からのヒントをいくつか得ることができました。

最初に注目したのが記号論におけるコミュニケーションモデルです。コミュニケーションは、発信内容をコード化規則に則り記号化され(言葉や文字などへの変換)、相手は逆に記号からコード化規則の逆処理でメッセージをデコードします。このとき、コード化規則が厳密なら発信者と受信者でのメッセージは極めて高いレベルで一致します。

コンテキスト依存型コミュニケーションモデル

S-open

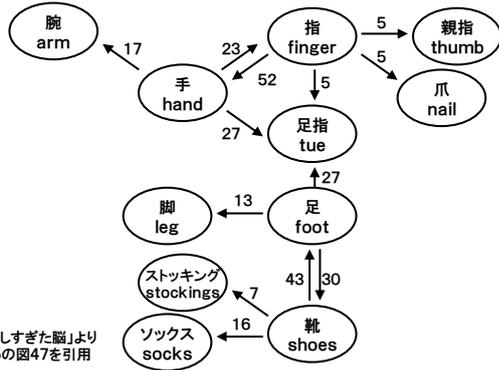


ネットワークプロトコルはまさにそうでなければなりません。しかし人間は会話の背景などに対応できるようにきわめて冗長性に富んだものになっています。そのため冗長性の原因とは何かを考えなければなりません。ここで注目すべきは、コンテキストです。コード化に影響を与えるコンテキストを見える化できれば冗長性の原因を捜すことができるはずで(図「コンテキスト依存型コミュニケーションモデル」参照)

次に、意味ネットワークです。人の知識は宣言的知識と手続き型知識に分けられ、宣言的知識は概念をノードとしたネットワーク構造をしていると言われています。宣言的知識は潜在記憶に蓄えられるために、判断に大きな影響をもたらすと言われています。この意味ネットワークのヒントになったのは、池谷祐二氏の「進化しすぎた脳」に掲載されている図です。(図「意味ネットワーク」参照) この図は、「指」という単語から体のどの部位を連想するかを表したものです。指(Finger)からは52%の確率では手(Hand)を連想し、手(Hand)から27%の確率で足指(Tue)を連想することを示した図です。この調査は英語圏の学生1000人を対象にした調査結果だそうです。その図からわかることは、連想の調査から意味ネットワークは可視化できるということと、使用している言語により意味ネットワークは異なるということです。日本人なら大抵は「足」と「脚」を明確には使い分けられないでしょう。しかし、英語の場合にはくるぶしの上と下で明確に分けているから「足」と「脚」を使い分けるのです。日本語なら「太もも」「すね」「ふくらはぎ」という連想が出てくるはずで。

意味ネットワーク

S^{open}



「進化する脳」より P175の図47を引用

このことから、もしかすると携わっている仕事や状況によってこのような意味ネットワークが異なるのではないかと考えたわけです。ソフトウェア開発ではいろいろな立場の人間が関係してきますから、皆さんが違った価値観を持っているはず。プロジェクトマネージャー、アーキテクト、テスト担当者、PMO、品証の担当。それぞれの役割により考えていることも違うわけですが、担当責務によってコンテキストが形成されると考えてもおかしくないはず。

コミュニケーションモデルと意味ネットワークという哲学と心理学の知見から、ソフトウェア開発現場で働く人のコンテキストを明確にできればチームビルディングや開発中のコミュニケーションが効率化できるのではないかと考えたわけです。

■ワークショップでは何をしようとしていたのか？

前置きはこれくらいにして、皆さんのワークショップの結果についてお話ししましょう。ワークショップでは、RFPをスタートキーワードとしてそこからソフトウェア開発に関して連想する単語を次々に書き出しました。同じ単語が繰り返されるのをここでは許しています。書き出された単語は共通フレーム 2007 で書かれている大きな領域ごとにマップしていきます。例えば、RFP→要件定義→設計、という連想だったとすれば、契約プロセス、企画・要件定義、開発プロセスの順に連想されたこととします。書き出した順番は非常に重要な意味があります。それは、のちほど。

こうして順番を維持されたままカテゴリにマップしていくと、あるプロセスからどのプロセスに連想が関連づけられているか、つまりはどういう意味ネットワークが形成されているかがわかります。

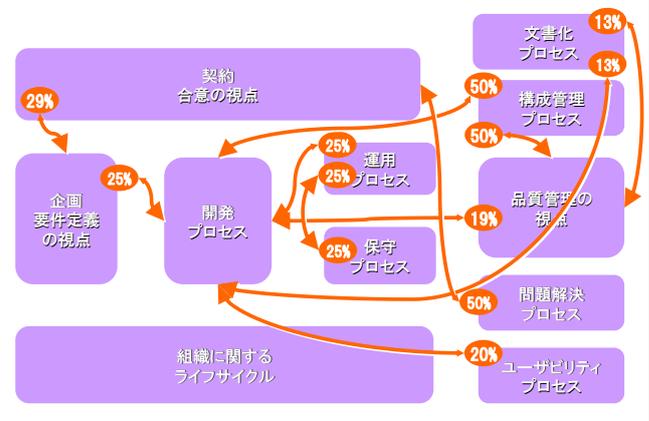
■コンテキストは見えたか？

今回の一連の調査では、3 回実施し 58 人の方にご協力いただきました（ありがとうございました）。その中で開発者、品質管理担当、ソフトウェアテスト担当の3タイプ方のデータに絞って分析を行いました。

皆さんが付箋紙に記入していただいた単語を関係の深い共通フレームのプロセスに分類していきます。このとき、ある単語から次の単語のつながりは連想の順序で維持します。例えば、スタートキーワードの「RFP」の次に「機能要件」と書かれていたら、「契約と合意の視点」から「企画・要件の視点」のつながりができたこととなります。図「開発者の意味ネットワーク」を見てみましょう。「契約合意の視点」からは 29%の割合で「企画要件定義の視点」に関連する単語を連想しています。同様に「企画要件定義の視点」からは 25%の割合で「開発プロセス」に関連する単語を連想していることとなります。

開発者の意味ネットワーク

S^{open}

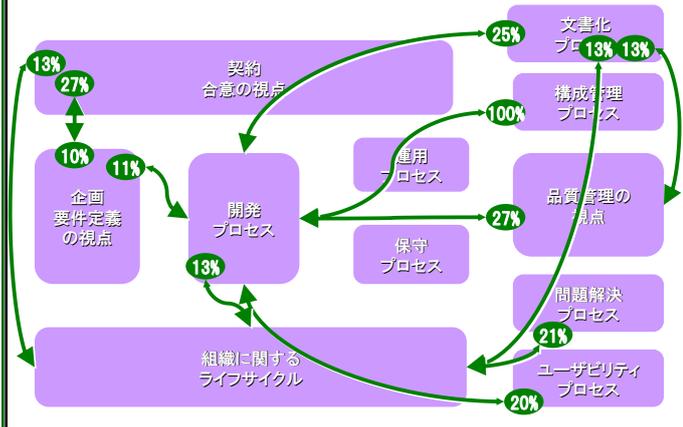


こうしてみると「開発プロセス」に対してリンクの線が集中していることがわかります。このようにリンクの線が集中しているカテゴリを「ハブカテゴリ」と呼ぶことにします。開発者の場合は、「開発プロセス」がハブカテゴリとなっていると言えます。（注：図の関係上、関連の少ないリンクは省略しています）

次に品質担当者の意味ネットワークを見てみましょう。開発者の意味ネットワークと見比べるとリンクの線がやや分散していることがわかれると思います。品質担当者の場合は、「組織に関するライフサイクル」がハブカテゴリになっています。開発者の意味ネットワークと明らかに違うのは、運用と保守のプロセスのリンクがないことです。また「品質管理の視点」から「開発プロセス」へのリンクが強いことも特徴です。

品質担当者の意味ネットワーク

Sopen

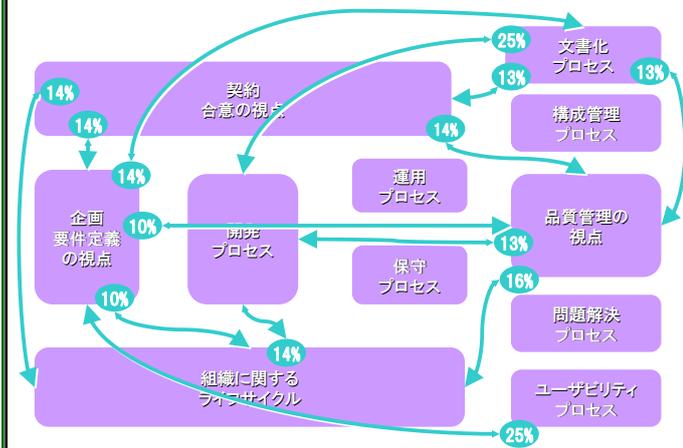


テスト担当者はどうなっているでしょうか。リンクの状態がさらに全体的に分散しています。ここでは「企画要件定義の視点」がハブカテゴリになっていることは大変興味深い事実です。開発担当者と品質担当者は、「企画要件定義の視点」から他のプロセスへ連想しているのに対し、テスト担当者は、「企画要件定義の視点」から「文書化プロセス」、「品質管理の視点」、「組織に関するライフサイクル」に連想があり、その一方で「ユーザビリティ」から「企画要件定義の視点」への逆向きのリンクがあることも特徴的です。

これらのことから、各担当者のコンテキストを考察してみましょう

テスト担当者の意味ネットワーク

Sopen



■考察→開発者はどんなことを考えているのか

連想される単語の数をプロセス別で分析してみると、「開発プロセス」に非常に集中しており、次点の「管理プロセス」とのギャップが大きいという結果が出ている一方で、品質知識については複数の領域での連想が見られます。「開発プロセスに関心が集中しているが、品質技術に関しては複数領域への関心が高い」といえることが言えます。つまり、必ずしも設計や実装の技術だけでなく、どのように品質を担保するかを意識しているということです。

■考察→品質担当者の振る舞いの背景は？

「組織に関するライフサイクル」を基点とした連想の傾向が強く、運用と保守のプロセスへの関心が極端に少ないことがわかります。どのようにルールを守って作られるのかに関心が高く、そのシステムがどのように使われるのかへの関心は低いと言えます。

それでも開発者よりは関心のあるプロセスは複数にわたっており、特定プロセスへの集中はやや低いようです。しかし（これは意外でしたが）品質技術についてはテスト技法への関心の集中が見られます。

■考察→テスト担当者のコンテキストは

開発者と品質担当者の中間的な傾向が見られ、品質領域に関しては、アーキテクチャ、実装、レビューへの関心が顕著であり、これはどちらにも属さない傾向です。また、「ユーザビリティ」から「企画要件定義の視点」へのリンクについては、テスト実施の中で要件に立ち返ることの多さを示しています。これはテストでは要件が非常に重要であることを示していると言えます。

■前編のまとめ

いかがでしょうか。皆さんが普段仕事をしているときに、担当業務の専門化が進むほどに意味ネットワークは明確な傾向を示すようになるはずですが、そのため、開発一筋の人、品質管理畑での長い経験を持っている人、若いテストエンジニア、では当然考え方も違うわけです。開発チームでは担当が異なる人が一つの目的のために協力で仕事をするわけですから意見の衝突も少なくないと思います。ここにさらに上司、部下、パートナーという立場の違いが加わることでコミュニケーションは非常に複雑化します。

また、コンテキストは変化するというのも忘れないで下さい。今回のワークショップで詳しい説明もせずに始めたのは、ほんの些細なことでも人の意識はそちらに集中してしまうからです。また、プロジェクトの状況、進捗具合などでもコンテキストは変化します。そのためこのワークショップで実施した結果は、変化しつつあるコンテキストの10分という一部分を切り出したものとご理解下さい。

意味ネットワークの違いを意識することで、コミュニケーションの起因する問題の対策がとりやすくなるのではないかと考えています。

・・・というわけで前編では開発プロセスの側面から意味ネットワークを分析してみました。主に連想のつながりについての分析でしたが、次回は連想の「数」の面について考えてみようと思います。プロセスでは共通フレームを用いて分析をしましたが、これに加えて SquBOK の視点を入れて分析をしてみようと思います。また、ワークショップの結果をソフトウェア開発にどのように活かすかということも考えてみたいと思います。

では、後編をお楽しみにしていってください。

JaSST'09 ベストスピーカーへの道のり

■ はじめに

WACATE-Magazine をご愛読の皆さん、こんにちは。エスエムジー(株)の鈴木貴典です。先日、家の近くで、桜のつぼみが大きくなり始めているのに気づきました。冬の寒さも落ち着き始め、春が次第に近づいてきているのを感じますね♪

さて、1月28日～29日に JaSST'09 Tokyo が実施されましたが、私はスピーカーの一人として参加させて頂きました。スピーカーとしては初参加だったのですが、なんとなんと、大変光栄なことに、ベストスピーカー賞を頂くことができました！セッションをお聞き頂いた皆さん、ありがとうございます。

そんなわけで、本稿では、私がベストスピーカーに至るまでの道のりについて、書かせて頂きます。

この記事を読んでいる方は、既に勉強熱心な方だと思いますが、そのような皆さんの次なる一歩に繋がるきっかけになればと思っています。

■ JaSST との出会いと発表の経緯

私が、JaSST を知ったのは3年前の2006年東京開催のときでした。

現在、社内では SEPG (Software Engineering Process Group) のリーダーを担当しているのですが、その SEPG としてプロセス改善活動を行うようになり、JaSST の存在を知りました。

私自身は、特に品質に関する改善活動に興味があったのですが、当時は、ソフトウェアテストに関するイベントはあまりなく(私が知らなかっただけ!?)、JaSST のように、他の人の取り組みなどが聞けるのは貴重でした。

書籍を読んで学べることも多いですが、研究や現場の事例を聞けるのは、非常に参考になりますよね。

これまで、JaSST にはひとりの聴講者として参加していましたが、去年、WACATE 実行委員長である池田暁さんが企画した勉強会などにも何度か参加していく内に、自分も聞く立場から話す立場にチャレンジしてみようかな、と考えるようになりました。

一種の Give&Take ですよね。受ける一方ではなく、自分からも発信することで、お互いに役立つノウハウを共有することは重要だと思います。

JaSST では、毎年8月ぐらいから論文の募集が開始されるのですが、その募集のメールを見て、「まずはやってみるか!」と思い立ち、応募することにしました。

■ 発表当日

当初は100人会場で実施する予定だったのですが、後から200人会場変わったこともあり、発表が終わるまで、かなり緊張していました。

そのような大勢の前で発表するのは、あまり慣れていないので、ちょうど就任したばかりであったオバマ米大統領の巧みな演説を YouTube で見たりして、発表のイメージトレーニングをしていました(当日のプレゼン資料には、ネタでオバマ氏のスライドも入れていたのですが、会場からの反応は薄かったですね(^_^;)。



■ 発表内容について

今回のセッションでは、定量的分析の盲点と、それに対するひとつの改善案について、発表しました。

ここで指す盲点とは「定量的分析を行っていても、属人性により、実は適切な分析になっていない」というものです。皆さんの周りでも、テストを実施し、定量的分析を行うことは多いと思いますが、品質を十分に確保できたかどうかよりも、納期やコストの制約が優先され、「それらしい」分析をして終わってしまっているプロジェクトはないでしょうか？

テストにおける品質分析といっても、

- 成果物の「質」
- 試験項目の「質」
- バグの「質」
- 試験担当者の「質」

などの要因が影響し、分析が非常に複雑になってしまいます。

社内では、そのような問題に対し、テストに入る前の実装段階から、成果物に基づいた現状把握と、静的解析ツールを利用した自動的な品質分析を行っていたのですが、その結果、リリース後の最終品質との興味深い相関性が見られました。

その発見が、今回の発表内容のベースになっています。皆さんも、日頃の仕事の中で、「なぜこのようになるのだろう」と感じた疑問や、「こんなことやってみた」という取り組みがあれば、それが話の種になると思います。

また、本稿では詳細を割愛させて頂きましたが、発表内容については、JaSST のページにてセッション資料も公開される予定ですので、ぜひ、そちらをご覧ください。

■ 発表を終えて

私の発表は1日目だったので、2日目はすっかり気楽になって、他のセッションなどをまわったりしていましたが、最後のクロージングセッションで、司会の方からベストスピーカー賞として発表され、ビックリ！！「本当に自分が！？」という感じでしたが、驚きと共に、うれしさが込み上げてきました。発表をしようと思いついた半年前は、全く想像していないことでしたね。



副賞として頂いた恒例の虫眼鏡です（ベストスピーカーには、「バグをより発見する」という意味を込めて、毎年、虫眼鏡が送られます）

■ 読者へのメッセージ

今回、たった30分間の発表でしたが、やって良かったな、と思っています。ベストスピーカー賞を頂けたこともあります（^^）、参加者の反応を聞けたり、意見交換をできたりしたのが良かったですね。これは、発表していなかったら、得られなかったものです。

JaSST'09 Tokyo のクロージングセッションで、基調講演を行われた Roger S.Pressman 氏が、参加者に向かって以下のような話をしていました。「話を聞きにきただけでは意味がない。この後、自分の仕事に戻って、どう活かすか、どう行動するかが重要です。」

これって大事なエッセンスですよ。本記事を読んでいる皆さんも、この後どうするかが重要だと思います。

まだ、JaSST や WACATE などに参加したことのない人は、まず参加してみることで良いと思いますし、すでに参加している人は、セッションでなくとも、ライトニングトークのような短いプレゼンにチャレンジしてみるのも面白いと思います。

JaSST は、他のイベントと比べてみても、そのようなチャンスが多くあるイベントですし、この WACATE-magazine でも、記事の投稿を受け付けていますしね♪ぜひ、皆さんも、今より一歩踏み出してみるのはいかがでしょうか？

スキルよりもやる気ですよ！



鈴木 貴典 (SUZUKI Takanori)

2002年エスエムジー（株）(<http://www.smg.co.jp>)入社後、フレームワーク開発やミッションクリティカルシステム開発に従事。2005年には、プロセス改善の中心メンバとして同社のCMMI Lv3達成に関わり、現在は、SEPGリーダとしてプロセス改善／品質管理の活動を推進中。その一方で、オープンソースの開発などにも積極的に携わっている。

Blog : <http://d.hatena.ne.jp/szk-takanori/>

投・稿・戦・士！ 若手はイベントで もっと話そう★語ろう

川西 俊之
(WACATE ファンクラブ)

～ デブサミ 発表記 ～

[Developers Summit](#)。略してデブサミ。みなさん御存じの現場の IT 技術者向けのイベントです。

去年は、テスト関連のセッションは別日程で開催されていましたが、今年はデブサミ内のテストトラックでテストについての議論が交わされました。

そのテストトラックのひとつのセッションに登壇することに。テーマは「レガシーコード」。テストトラックで「レガシーコード」って、ちょっとテーマが合っていないのでは？とツッコミがあるかもしれないですが、そうでもないのです。

「[Working Effectively with Legacy Code](#)」という本では、レガシーコードとは昔書かれたソースコードの事を指すのではなく、「レガシーコード = テストのないコード」と位置づけています。ここでいうテストとは xUnit などの自動テストの事を言ったりと細かいことは色々あるのですが、まあ、要はレガシーコードとテストというキーワードが関連しているということです。

詳細について興味のある方は、和訳も出る予定なので本を読んでみてください。(私は翻訳者でも、まわし者ではありません。念のため。)

今回は、テストトラックのコンテンツ委員の方からお話を頂いて登壇したわけですが、始めは色々不安もありました。

自分の専門でもない「レガシーコード」について、価値のあることを話せるだろうか..... など。ただ、思い切ってやってみたところ、一緒に登壇してくださる方々のおかげもあり、何とかなるものでした。聞いてくださった方々の Blog などでも評判は上々のようです。

WACATE-Magazine を読んでいる熱い若手ならば是非、チャンスを見逃さずイベントなどで話してみると良いと思います。

話す自分の考えがまとまるし、その後の世界が広がります。特に若手の間にどんどん体験しておいた方がその価値は大きいでしょう。

「イベントで話すなんて、自分には声がかからないよー」なんて方も、少し探せば[ライトニングトークス](#)など、話せる機会はたくさんあります。ライトニングトークスであれば、5分間で気軽に話せるので、ちょっとしたネタがあれば参加しやすいかもしれませんね。

しかも、WACATE ファンによる WACATE ファンのためのライトニングトークス大会なんてイベントが企画されているという噂も。是非、チャンスを見逃さず申し込んでみてくださいね。

余談ですが、実は、当日は時間の関係で私はあまり話せませんでした。会場に来ていた後輩に、後日、川西さんが「そうですね」「なるほど」と相槌を打っていたのが印象に残りましたと言われてしまいました.....



川西 俊之 (KAWANISHI Toshiyuki)

WACATE には 2008 夏・冬の 2 回参加。WACATE 各回の参加者登録番号 No.01 を手に入れることに執念を燃やす、自称、ファンクラブ会員番号 001。28 歳、正真正銘の若手。仕事では、通信関係の開発からテストまでを担当する部署に所属している。オープンソースでは、テスト管理システム [TestLink](#)、C 言語用 BDD フレームワーク [CSpec](#) などに携わっている。博士 (理学)。

002 号で募集した「投・稿・戦・士！」
栄えある初投稿&初掲載は自称・WACATE ファンクラブ会員番号 001 の川西さんでした★
川西さん、ありがとうございました♪ こっちでも No.01 ですね★

エンジニアと共に つくるフリーペーパー

EM ZERO

●こんにちは、皆様

WACATE-Magazine の読者の皆様こんにちは、EM ZERO 編集部のごパンと申します。EM ZERO はエンジニアと共に作るフリーペーパーとして 2008 年 7 月に刊行されました。

準備号の Vol.0、Vol.1、Vol.2 と隔月ペースで刊行を続け、2009 年 2 月には Vol.3.1 が刊行されました。

●EM ZERO とは

EM ZERO はエンジニアと共に作るフリーペーパーです。必ずしもエンジニアリングを扱うフリーペーパーではありません。どんなテーマでも OK です。「EM は何の略なのですか？」と聞かれることがありますが、実は特に意味はありません。E は Engineer かもしれませんが、Electronics かもしれませんが、Emotion かもしれませんが。M も Mind かもしれませんが、Mission かもしれませんが、Made かもしれません。

IT 業界も不況の影響で元気がない印象を受けますが、出版業界も同じ状況です。特に雑誌は広告が収入の大部分を占めるので、種類・部数とも下降の一途をたどっています。

こういうときだからこそ、いったんビジネスモデルのような難しい話は置いておいて、出版のおもしろさを ZERO から考え、楽しく誌面作りをできる方法を試行錯誤していこうというのが EM ZERO の原点です。

●EM ZERO の特徴①—原稿執筆も編集も手弁当

EM ZERO には（あまり）広告がありません。通常雑誌を 1 冊立ち上げようとしたら何百万もの広告収入が必要で（場合によってはもっと！）。しかし、最初からたくさん集めることを前提にすると、広告を出してもらえらる誌面作りが優先になってしまいます。

それなら逆に、原稿執筆も編集も手弁当でやって徹底的にコストを抑え、おもしろい誌面作りを徹してしまおうというのが EM ZERO の試みです。WACATE-Magazine と同じ発想だと思います。

●EM ZERO の特徴②—配布も手弁当

配布ももちろん手弁当です。イベントで配布していたり、執筆者や読者、熱烈（！）な支援者の方のオフィスに置かせていただいたり、同僚や上司・部下の方に配っていたりしております。

書店さんではジュンク堂池袋店が EM ZERO を設置してくださっています。かなりいいコーナー（新刊書コーナー）に置いていただいているようです。鳥一代という田町にあるサムゲタンのおいしいお店にも（なぜか）置いてあります。ちなみに、このサムゲタンは絶品です。EM ZERO はさておき、一度お召し上がりいただければと思います。

●EM ZERO の特徴③—原稿執筆と編集は共同で

原稿執筆と編集は Google Sites のサービスを使って共同で行っています。原稿執筆や編集の世界は知られていない部分が多いので、IT を使ってどんどんプロセスをオープンにし、多くの方に原稿執筆や編集の楽しさを体験していただきたいと考えております。

Vol.3.1 では WACATE の体験記事を掲載しております。共同編集の様子とできあがった記事の誌面を次の図に示します。



●ちょっとずつ前進

先ほど広告がほとんどないと書きましたが、実はちょっとずつ広告をご投稿いただけるようになってきます。会社だけでなく、なんと個人で広告を出してくださる方も現れてきました。どんな会社やどんな人が広告を出してくださっているのか、それは誌面をご覧ください。PDF でご覧いただくこともできます

(http://www.manaslink.com/em_zero)

Vol.3.1 の配布部数は 5000 部となりました。できるだけ多くの方に手に取っていただき、気持ち良く読んでいただけるよう、記事内容や編集はもちろんのことデザインや紙質・印刷にもかなりこだわっています。EM ZERO のページにて在庫のある号に関しては 3 部まで無料お取り寄せを受け付けておりますので、インクの香りを楽しみつつ、ぜひ紙に印刷された記事をご覧ください。

ソフトウェアは人がつくる、という当たり前のことが忘れられがちな昨今ですが、雑誌も人がつくります。人がつながらなくてもできていくという喜びはソフトウェアも雑誌も同じだと思います。

ぜひ WACATE-Magazine 読者の皆様も EM ZERO の世界へお越しくください。原稿執筆や編集作業、そして配布へのご協力、大歓迎です！

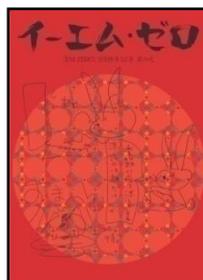
よろしく願い申し上げます m(_)_m。



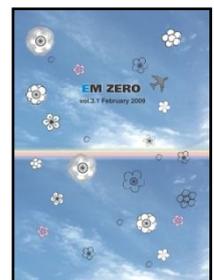
EM ZERO Vol.0
2008 年 7 月発行（在庫切れ）



EM ZERO Vol.1
2008 年 9 月発行（在庫切れ）



EM ZERO Vol.2
2008 年 11 月発行（在庫切れ）



EM ZERO Vol.3.1
2009 年 2 月発行（配布中）

伊せんぱいにきく。🎧

第3回：【失敗とのつきあいかた】 富士ゼロックス(株) 秋山 浩一 先輩



WACATEの皆さん、こんにちは。秋山です。前回の「せんぱいにきく。」の記事の奥村有紀子さんには、日科技連のSQiP研究会副主査としていつも大変お世話になっています。ここだけの話ですが、私よりよっぽど大局的な見解を述べられるので本当に頼りにしています！ 2009年度も、同じ体制で行きますのでWACATE同様、[SQiP研究会](#)もどうぞよろしく！っとさりげなくコマースタルでした。(^^)

さて、私は、WACATE 2008 夏のクロージングセッションに参加させていただいたのですが、『WACATE Magazine Vol.2』に、竹原さんが、その時の私の話を実践されているとの記事が載っていて、とてもうれしくなりました。

[クロージングセッション](#)では、「ソフトウェアテストがおもしろい理由」と題して、3つのこととお話しました。「**話が来たら断らない**」、「**本は読もう読んだら使おう**」、「**おもしろいテーマを見つけよう**」の3つです。あの時は、クロージングセッションということで気分っちゃったところもあったので、今日は、私の失敗談を聞いてもらおうと思います。

私は、1985年入社、会社員としては23年のキャリアです。でも、ソフトウェアテストの仕事を本格的にやるようになったのは、1996年11月から。だから、テストエンジニアとしては、まだ、12年とちょっとです。

一番初めに、私のチームは、**自動実行ツールにチャレンジしました**。一応、[ツールは完成](#)し、仕組み的にはおもしろいものができたと思っているのですが、次々とバージョンアップを繰り返すソフトウェアへの追従や、開発者としてはシンプルと思っていたWindows上のアイテム登録作業が中々オペレータが使いこなすレベルまで行かず、現在でも使用しているものの、“ツール開発・保守費用 vs. テスト工数コスト削減”効果が出せたかというところ微妙なところがあります。(^^)

テストの自動実行でコスト効果を出すことはとても難しいと気が付いた私が次に取り組んだのは、**原因結果グラフツール**です。原因結果グラフツールを選んだ理由は、当時、ベンチマーキングさせていただいた会社が導入済みで効果が出ているという話を聞いたからです。

今、思い返すと、その時、その会社の人は、「強力な技法だけでなく、適用は難しいし、我々も、毎回適用するわけではなく新規の重要機能に対して適用しています。」とアドバイスしてくださっていたのですが、当時の私には、「強力な技法」という言葉しか耳に入っていなかったようで、技法を学びツールを作ることが目的になってしまっていました。その結果、ツールは何とか完成したのですが、**その後に適用できる箇所を探すといった本末転倒になってしまいました。**

その反省を活かして、問題点から切り込んでいったものが[HAYST法](#)です。当時の市場バグを分析し、組合せによるものが多く、それを検出するためのテスト技法を持っていないことを確認し実験計画法から作ったものです。こちらも、最初は全然うまくいなくて、当時の役員に「**もうだめです**」って泣きを入れたところ、その道のプロ(吉澤正孝さん)を紹介してくれて半年くらい毎週勉強会を開いて作ったものです。ただし、こちらも適用を拡大するにしたがって、色々問題がでてきました。それは、**組合せのバグ以前に単機能のバグが取りきれない組織があったり、そもそも、テストって何?ってところから始めないと出来ないチームもあったから**です。**JaSST '09 Tokyoでテスト戦略とかテスト分析とか言い始めたのは、実は、必要(=失敗)に迫られてなんです。(^^)** できあがったものから、学習してしまうとそういったところが謎なのかもしれませんね。

最後に、私事ですが、2009年4月から香川大学の古川先生(JaSST Tokyoの実行委員長でもありますね)のところで、**社会人博士後期課程として学ぶことになりました**。仕事を続けながら3年間、研究と論文作成の指導を受けるというものです。動機は、一番初めに書いたSQiP研究会での指導でのこと。やっぱり、力不足を感じたんですね。それで、**受験を決心した決め手は、実は、JaSST '08札幌**でした。

基調講演をされた、渡部 洋子さんが、[パネルディスカッション](#)のときに、「振り返って・・・やっておいてよかったこと、やっておくべきだったことは何でしょうか？」という質問の後半(やっておくべきだったこと)に対して、「思ったことがない。必要だと思ったときにやればいい。」って答えられたんですね。

それを聞いたときに、「**勉強が必要だと思ってるんだから、やるか!**」って決心がつかしました。で、その日の懇親会が終わった後に古川先生に「お願いします」と。。

だから、だから、WACATEのみなさん、私よりずっと若いみなさん!!

どうか、**少々の失敗があったとしてもめげないでください**ね。失敗を契機に次のステップに踏み出しちゃいましょう!

ワカテにきく

第3回：【テストのやりがいについて】 永井 雄介(株式会社プリューデンス)

WACATE の中でも若手(たぶん)の、(株)プリューデンスの永井(24)です。

某検索サイト G さんがシステムダウンしてるのを見ると何故かホッとしたり、某有名ゲームDがバグ出すぎでデバックが間に合わず発売日延期と聞くと品質管理さんグッジョブ!とか思ってしまうほどテスト漬けの日々を送っています。

さて、今回私からは「テストのやりがい」についてコラムを書かせて頂こうと思います。

WACATE 2008 冬の分科会で「テストのやりがい」についての討論に参加しました。障害を発見した時や製品の品質向上が実感できた時など多くのやりがいを聞くことができ、後半はどうやったらやりがいが伝わるのかという議論になりました。どの企業さんでも品質管理の重要性は理解しながらも、楽しさややりがいは理解され難いようです。

皆さんは「テストって何がおもしろいの?」って聞かれることはありませんか?

テストの楽しさってなんで伝わらないのか電車の中で考えている時、不意に電車の運転手さんに意識が向いて、電車の運転手さんは決められたレールを決められた速度で決められた時間に走るこの職業って何がおもしろいんだろうって思いました(読者の運転手さんごめんなさい!)

そう感じた時初めてテストの楽しさを聞いてきた人の感覚が実感できました。

どちらもエンドユーザからしたら時間通りに来てあたりまえ、バグが無くてあたりまえ、私達のアウトプットは日本ではあたりまえなことなんです。

電車が時間通りに来てあたりまえで、時間通りに来ることになら感動も覚えません、プロセスだけを見ると堅実で地味で楽しさを感じるのは難しいかもしれませんが、**乗車している人の1日をあたりまえの1日にしてくれている事を考えるとすばらしい仕事だなと感じました。**

どこかの国では電車遅延なんて時間単位があたりまえ、中国ではエンドユーザが動作のチェックを購入する前にするのがあたりまえという話を聞いた事があります。

なので外国人の方は電車が時間通りに、しかも数分間隔で来ることにすごく驚かれますし、中国では自国メーカーではなく日本メーカーでもなく **made in Japan** が好まれます。

近年グローバル化が進み国境が無くなりつつあるように思います。

デザインならヨーロッパ、生産性なら中国のような各国の特性にニーズが集中して行く中、日本の武器となりえるのはこのあたりまえな正確さと品質になってくるのではないのでしょうか。

テストにやりがいを感じられないアナタ!

将来性を感じられないアナタ!

声を大にして言いましょ!

これからの日本を支えるのは電車の運転手さんと私達、品質管理者なんだ!

※ちなみに画像のケ○○軍曹似のキーホルダーは社長から頂いた中国土産なのですが、紐の輪がキャラクターを通すために必要な長さが無いためキーホルダーとしての役割を果たしていません。



著者近影

本コーナーはリレーコラム形式で進めています。

今回は2回目の竹原さんからのご紹介で、WACATE2008冬にご参加いただいた、永井さんに書いていただきました。

有難うございました★

Software Test Topics

当番：山崎 崇 (MACATE 実行委員会)

さ～て、今月もやってまいりました、Software Test Topics。近々出版される書籍や、イベント静脈などをご紹介して行きたいと思えます。

Quality One Vol.5

[SQIP \(Software Quality Professional\)](#) から刊行されている Web マガジン、“[Quality One](#)”の最新号、Vol.5 が公開されました。Quality One はもともと、2005 年に紙媒体で創刊号が出版され、翌年の Vol.2 から Web マガジン (PDF 形式) に形を変えた後は、暫く沈黙をまもってききました。しかし、2008 年 8 月より季刊化(2 月、5 月、8 月、11 月)され、2008 年の 8 月の Vol.3、同 11 月の Vol.4 と続き、今月の 25 日に Vol.5 がめでたく出版されました。うちの委員長も、辰巳さんと町田さんと一緒に [SQUBOK ガイド](#) について記事を連載しています。気分転換のお供いかがでしょうか。

EM ZERO Vol.3.1

先月号で紹介した [EM ZERO](#) ですが、なんと、Vol.3 は [Vol.3.1](#) と Vol.3.2 として 2 ヶ月連続で刊行されることとなりました。Vol.3.1 は 2 月 20 日から配布が開始され、Vol.3.2 は 3 月中に配布される予定です。また、今月号では、EM ZERO 編集部の方に EM ZERO についてご紹介していただいていますので、そちらも併せてご覧ください。

[Vol.3.1](#) はまだ PDF 版やオンラインビューワー版が用意されていませんので、いち早く読みたいという方は、所定の配布場所や、Web から無料でお取り寄せできるそうですので、それらをご活用ください。

JSTQB Foundation Level 試験

[JSTQB 認定テスト技術者資格第 6 回 Foundation Level 試験](#)が、2 月 7 日 (土) に行われましたが、既に次回以降の開催日程が告知されていますので、ご紹介します。

- 第 7 回 FL 試験：2009/8/29(土) 実施予定
- 第 8 回 FL 試験：2010/2/13(土) 実施予定

なお、[シラバスと用語集](#)が公開されているので、どのような内容を取り扱っているか、概要を把握することができますし、JSTQB に対応した参考書や問題集なども、3 冊ほど出版されていますので、勉強のお供いかがでしょうか。

- [JSTQB 教科書 JSTQB 認定テスト技術者 Foundation Level 試験 \(JSTQB 教科書\)](#)
- [演習で学ぶ ソフトウェアテスト特訓 150 問 JSTQB テスト技術者認定 Foundation 対応](#)
- [ソフトウェアテストの基礎:JSTQB シラバス準拠](#)

第 2 回初級ソフトウェア品質技術者資格試験

[日本科学技術連盟こと日科技連](#)が主催する[初級ソフトウェア品質技術者資格試験](#)ですが、第 2 回の受験受付が 2 月 23 日から開始されました。

実施日程は 5 月 29 日(金)16:00~17:00。平日開催となっていますのでご注意ください。また、受付締切りは 4 月 24 日の 15 時までとなっていますが、会場定員に達し次第、締め切る場合もあるそうなので、受験を考えている方は早めに申し込みましょう。

なお、今後は 5 月と 11 月の年 2 回、定期的に開催していくそうです。主参考図書と副参考図書として、次の 2 冊が指定されています。

- [SQUBOK ガイド](#)
- [ソフトウェア品質保証入門](#)

また、シラバスが公開されているので、出題範囲と各項目で必要とされる知識レベルを確認しましょう。

ソフトウェアテスト春ゼミ

さて、先月号では「[第 2 回 ソフトウェアテストセミナー](#)」をご紹介しましたが、なんと同日に別のテスト関連イベントがありましたので、ご紹介したいと思います。

[アプリケーションの品質とセキュリティの確保
～テスト手法・ツールの有効活用～](#)

開催日: 2009 年 3 月 11 日(水)13:00~16:40

会場: 秋葉原 UDX ギャラリー (秋葉原 UDX4F)

定員: 100 名

主催: @IT 情報マネジメント編集部

参加費: 無料

定員に達し次第締切りとなっていますが、原稿執筆時点では、申込フォームへのリンクが有効でしたので、まだ空席があるかもしれません。予定がつくようでしたら参加してみてもいいかもしれません。

原因結果グラフ&デジジョンテーブル勉強会

徐々に、TEF で勉強会が開催されます。今回のお題は、なんと「原因結果グラフ&デジジョンテーブル」です。

勉強会は全 3 回を予定しており、1 回目の募集は既に定員に達していましたが、残り 2 回の募集はまだ開始されていませんので、参加を検討している人は、こまめに TEF のメーリングリストをチェックしましょう。

さて、このコーナーでは、新刊や、イベントの情報などを募集しております。例えば、「来月勉強会とか OFF 会とか開催するんだけど掲載してくれない?」といったものでも OK です。開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。情報をお待ちしております m(_ _)m

池田暁の

ミュージカルに恋して。

【第三幕】—1300人を目の前にして—

♪700人の前でしゃべりました

1月最後に開催されたJaSST'09 Tokyo, 二日目の午後から190分にも及ぶパネルディスカッションが行われましたが、私もパネリストとして登壇、**聴講いただいた方、ありがとうございました。**

当日の会場は700名は入る規模でした。今までせいぜい200人くらいの前でしか話したことがなかったため、始まる前はそれなりに緊張していました。しかしながら、始まってしまうと、不思議とその緊張は心地よいものになり、壇上で聴講者の視線を受けても、それほど慌てませんでした。

これは自分にとって大きな驚きでした。いったい何故だろうと考えていると、2008年のある経験が役に立っているのではないかと思ひ当たりました。

♪1300人の視線を浴びるということ

2008年3月に日生劇場で「ベガーズ・オペラ」というミュージカルが上演されました。この演目は観客巻き込み型の演目なのですが、**一幕の最初にステージ上のごみをお客に掃除してもらうという演出があります。**やはり一度は舞台上に立ってみたいと思っていましたから、「この中で掃除が好きな人いませんか？」と声をかけられたときに、**はいっ！と手を上げ、指してもらいました。**

憧れの舞台、しかも日生劇場の舞台に「演目を構成する一部として」立つことができたことにとっても興奮し、そして少しばかりの緊張があったことをよく覚えています。席から立ち上がり、ほうきを手に取り、役者に指定された場所を掃いていきます。半分くらい掃き終わったころだったでしょうか、本当に何気なく視線を上げました。

そうしたら、**そこには1300人を超えるお客さんの視線！**

1階席、2階席、そしてステージ脇から2600もの好奇の目がこちらに注がれています。掃いているときには気がつきませんでした。ライトも当ててもらっています。これにはさすがに膝が笑いました。今まで感じたことのない種類と大きさのプレッシャーに「怖い」と感じました。直視できず視線を落とし、笑う膝に必死に力を入れ、なんとか掃除を終えましたが、**あの感覚は今でも忘れられません。**

しかしながら、**これである種の自信と度胸がついたのだと思います。** どういう形であれ「1300人の前で仕事をやり遂げた」と思えたのです。ですから、クロージングパネルでは無意識に「700人だったら、今までの最高の半分くらいじゃん」と考え、そしてそれが余裕を生んだのだと思います。

♪舞台を踏めば成長できる

「大きな舞台を踏み、やりとげることで成長や自信が得られる」おそらくこれは私たちエンジニアにとっても同じことかなんだと思います。この経験のおかげでそれを実感として持っています。

このように、ミュージカルは私の中では単なる趣味ではなくて、**仕事にもつながる勉強の場にもなっています。** (^-^)

それにしても、この視線の中、堂々と歌い踊る役者の皆さんは本当にすごいですね。今まで以上に役者の皆さんをリスペクトするようになりました。

P.S. ちなみに演目の最後、役者がお客さんを連れ出して輪になって踊り、共に歌うという演出がありますが、憧れの島田歌穂さんに連れ出してもらい、また、一緒に歌うことができ一生の思い出となりました。

あれは本当に気持ちよかったなあ〜。 (^-^)

♪2009年2月の観劇記♪

♪「しとやかな獣」(紀伊国屋ホール)

2/5(水)ソワレ、最前列センターにて観劇。

作：近藤兼人、演出：ケラリーノ・サンドロヴィッチ。

47年前に公開された同盟映画の舞台化、昭和30年代、東京郊外の団地の一室で繰り広げられる真性ブラックコメディ。前田よしの=広岡由里子、前田時造=浅野和之のやりとりが軽快で楽しい。前田実=近藤公園、前田友子=すほりれいこも好演。しかしやはり、三谷幸枝=緒川たまきは存在感が際立っていた。**品の良さもよく出ており、それだけに悪女っぷりが引き立っていた。**

全体としてはそつない作りではあったが、それだけにもう一山感じられるような演出があればよかった。また、もう少しブラックでもよかったかもしれない。

♪「届かなかったラブレター」(ル・テアトル銀座)

2/18(水)ソワレ、27列上手にて観劇。

クミコ、井上芳雄の二人による歌語り。

様々なラブレターを集めた同名書籍から、29編を紹介。ラブレターの朗読と歌唱により構成される。演出は覚和歌子。

セットや衣装は白を基調としてまとめられ上品な印象。試みはおもしろいが、ある種淡々と進んでいくため、人によっては「眠い」ものであるかもしれない。また、特にストーリーがあるわけではないので、アフレコな物が苦手な人には辛いかもしれない。井上はどの曲もそつなくこなすが、ダンス要素がないだけに、より丁寧な歌唱に注力したという印象。じっくりと聞くことができ、良かった。

Vol.1とあるが、Vol.2も期待。ただ、もう一人くらいメンバを加え、トリオで行っても良いかもしれない。楽しみです。

♪その他

タイタニック(東京国際フォーラムC)は全体通してどこに焦点が当たっているのかわかりにくく残念。

回転木馬シークレットライブに足を運びました。

♪2009年2月のキニナル演目♪

3月のキニナル演目は「回転木馬」。

<http://www.gingeki.jp/mokuba/>

銀河劇場、2009/01/05(月)～2009/01/29(木)。

出演：笹本玲奈、浦井健二、坂本健児、はいだしょうこほか
移動遊園地で働くビリーと恋に落ちた町工場のジュリーのカップル、そしてジュリーの友人であるキャリアと漁師のスノウのカップルを中心に話は進んでいきます。ある事件で亡くなってしまったビリーが、抱き上げることができなかった我が子のため、天国から1日だけ地上へ戻ることを許されるというストーリーは全世界に感動を与えました。この演目のテーマ曲でもある「If I Loved You」や「You'll Never Walk Alone」は誰もが一度は聞いたことがあるのではないかと思います。

今回上演されるにあたって、ブロードウェイ版「Mamma Mia!」の共同演出家ロバート・マックイーンを演出として招聘。きつと新たな魅力が加えられていることでしょう。個人的には、大ファンである**笹本玲奈さんが主演**という楽しみもあるのですが、知人がオーケストラに参加するとのことで、それも楽しみの一つです。

♪終わりに♪

さて、来月は博多座で公演中のミス・サイゴンを遠征します。その他、回転木馬、ザ・ヒットパレード、レ・ミゼラブルを観劇予定。特に回転木馬は何回通うことになるか自分でもわかりません。また、歌舞伎(忠臣蔵)にも初挑戦。年度末というのに忙しくなりそうです。



補給戦線異状なし!

本コーナーはテスト業界という
知的戦場で戦うテストエンジニアたちの
糖質補給等を暑苦しく支える
漢(おとこ)たちの物語である!

Mission-1: へ、別にチョコが欲しかったワケじゃないんだからねっ!

人物紹介

新兵: 元気ハツラツ×やる気ムンムンの新人。
先輩は神だと思っているちょっぴり残念な子。たぶん 19 歳。

軍曹: 上には弱く下には滅法強いタイプのおっちゃん。
33 歳窓際体育会系。精神年齢は 14 歳。

■なんだこのコーナー?

新兵: 軍曹ッ! このコーナーは何でありますかッ! ?

軍曹: 貴様知らんのかアアッ!! (バキッ)

新兵: くはぁっ...(キラリと光る涙)

軍曹: いいかよく聞けッ! このコーナーは常に知的作業を行っている
社会という戦場にいるテストエンジニアの同志に向かって、
より快適なパウチの補給方法とその戦術について紹介する
コーナーであるッ!!!!!!

新兵: さ、さすが軍曹! 甘いものを紹介することで我々テスト
エンジニアの能力を最大限に発揮する作戦なのですね!

軍曹: うむ。わかればよい。

新兵: でもそれって軍曹のシュミなんじゃ...

軍曹: やかましいッ!! (バキッ)

新兵: くはぁっ...(キラリと光るファンタジー)

軍曹: ...しかし貴様は空気が読めないのう。

新兵: すみませんッ! 全て自分のせいでもありますッ! !

軍曹: ではバツとしてサンマルクカフェに行つてこい。

新兵: な、なんでありますか「サンポール? カフェ?」とは?

軍曹: 貴様アアアアアアアアッ!! そこへ直れッ!

「気を——一つけッ! !」

新兵: スババッ(←直立不動の姿勢)

軍曹: 「サンポール」じゃなくて「サ・ン・マルク」だ!!

このストドッコイがあアアッ!! (バキッ)

新兵: くはぁっ...(キラリと光る涙)

軍曹: まあ、貴様のようなヒョッコが知らんのも無理はない。

サンマルクカフェは全国にチェーンを展開しているカフェだ。

てゆーか知らないっていうヤツ初めて見た。

新兵: ふ、不勉強でしゅびばせんっ! くふっ...

軍曹: フン。サンマルクカフェに行くとだな。「チョコクロ」という

デザートを補給することができるのだ。

新兵: な、なんでありますか「チョコクロ」とはまた面妖なネーミング...

軍曹: 最近面妖って日本語も使わないけどな...まあ簡単に言うと

チョコが入ったクロワッサンであーる。(そのまんま)

新兵: す、すんごくわかりやすいのですが、コンビニやスーパーで
袋入りでお買い得品とかでよく売ってるチョコマーブル
ロールパンではダメなんでしょうか?

軍曹: うむ。良い質問だ。バターの香り・食感、チョコレートの濃厚さ。
どれをとってもタダモノではないのだ。なにせパン屋さんが
本気で作ってるからな。例えるなら肉屋さんがメンチカツ
作ってるよーなもんだ。(変わんねーけど)
まあいいから早よ買ってこんかい。

新兵: く、軍曹、じ、自分、財布に 500 円しかないのですが...

軍曹: (うわーしみたれてんなーこのガキ)うむ。問題ない。

なんといつてもチョコクロは 1 つ 160 円くらいだからな。

2 つは買えるぞ。なんだか説明していたら腹が減って...

くっ...腹が痛いっ...

新兵: だ、大丈夫でありますかッ! ?

今すぐ買ってきます!!!!!!!! (ダッシュ)

軍曹: あーい。行ってらっさーい。(ホジホジ)

あ。スタバのアーモンドチョコもついでに買いに行かせれば

よかったな〜

■今月のウエボン。「チョコクロ」

てなワケでやっぱりバレンタインがあったということで、
チョコ系を。

「チョコクロ」です。

味の割に安価で嬉しい♪

あと、[スタバのアーモンド](#)

[チョコ](#)も美味しいです★



興味がわいた方はぜひ食

べてみてくださいねー♪

...しかし、このコーナー名考えたの誰だwwwwww

自分で書きながら笑ってしまったじゃないですかwwwwww

異状なし! ってwwwwww コラwwwwww

WACATE-Blog出張所

読者の皆さんこんにちは、池田です。

突然始まったこのコーナーですが、その名の通り WACATE-Blog の出張所ということで、実行委員によるリレーミニコラムです。毎月のあれこれを皆さんにご紹介できればと考えています。(^-^)



■慰安旅行を決行！（フジヤマ！）

去る 2/7~2/8 の二日間、山崎さんと小山さん、私の 3 人で箱根まで慰安旅行を決行しました。昨年末の WACATE 2008 冬、そして 1 月末の JaSST'09 Tokyo と、WACATE 実行委員会は休みなく活動し続けたので、一息つきましようということになりました。



芦ノ湖畔にて。

当日、一行は小田原で合流後、バスで芦ノ湖まで移動。芦ノ湖についてからは、箱根神社に参拝。



箱根神社にてヤマサキさん絵馬奉納♪



ワカサギにゴキゲンな池田と船長を襲撃するコヤマン

WACATE が発展していけるよう、絵馬を奉納。その後は箱根蕎麦とワカサギを食し、海賊船へ。宿は小ぢんまりとした感じですが、上品な佇まい。離れの部屋での宿泊で、温泉と料理をゆったりまったり堪能したのでした。



舟盛り+しゃぶしゃぶで乾杯♪

明けた二日目は大湧谷にロープウェイで移動。



大湧谷到着！

この日は突き抜ける青空。富士山もくっきりはっきりです。名物の“黒卵”と“たまごソフト”を食した後、ケーブルカー、箱根登山鉄道、東海道線と乗り換え一路東京へ。



ヤマサキさん、大車輪の活躍(大暴れ)w



え、なぜ東京かって？

実はこの日、ミュージカル「タイタニック@東京国際フォーラムC」の千種楽だったのです。

終演後は近くのドイツ料理で打ち上げ！

こうして、充実した二日間は終了したのでした。

これで、気力はチャージ完了！

WACATE 2009 夏 に向けて、メイっぱいがんばるぞっ！

書いた人：池田

開 運

源太郎の ソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…

日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本古来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである! (笑)

	生まれ年	3月の運勢
一白水星	S47/S56/H2	いささか動きに迷いの多い月であるが、身体無事なり。しかし向こう見ずに法外に邁進する時は不慮の災いを招き取り返しにつかないことになる。急がず、焦らず、自然に来る好朝に乗じて、隠せず元気を鼓舞して何事も前向きに行うべし。
二黒土星	S46/S55/H1	本月は衰運、諸事意の如く進まず、物事半途にて破れ心身共に悩みの免れ難き兆しあり。万全の計画も動きもすれば、内より乱れ、手違い喰い違いになり易し。諸事控え目に無鉄砲を慎み冗長の意に細心の注意をもって事をなせ。
三碧木星	S45/S54/S63	多少の動揺を生じるも大体平穩無事の月なり。しかし心は焦り気味にて空想にかられ望外の望みを起こしいろいろ迷いを生じ、ただし事態はなかなか進展せず、空しく終わる。余程注意せぬと友人と断交など思わぬ事から足元から壊れ落ちる。焦らずチャンスの到来を待つべし。
四緑木星	S44/S53/S62	本月は八方塞がり、物事行き詰まり纏まり難く他人の迷惑を引き受けねばならぬ破目になる。新規事業や、投機的事業は慎み、本業のよく心を配り、親友夫婦の争いを生ぜぬ様何事も身を慎み独断専行をなさず目上の人に相談し後援をもとめるべし。
五黄土星	S43/S52/S61	運気よろしからず、幸福手に入り難き月です。冷静沈着に決して軽率盲動すべからず、焦るは失敗の因を招く、一家・親友間に不和の起こらぬように注意し、正道を守り不撓不屈の精神にて、進めば暫時順境に向かう。
六白金星	S42/S51/S60	本命星中宮星を剋し、多少の妨げあるも気をもむに及ばず、万事正道を守り邪道に陥らぬ様心がけ、目上の援助を受けるならば事業は属副に進み金銭は豊富となる。温和な態度を保ち専心本文に安んずれば必ず喜びを見ん。
七赤金星	S41/S50/S59	本月は衰運、常に憂苦絶えず、何かと故障生じ、身上の変動・家内の不和・住所の移動など起こりやすし、順境に向かうも、逆境に向かうもその人の心がけ一つならば、迷わず焦らず慎重に事をなし、独断専行なすべからず、東南に暗剣殺巡り大凶方につき充分注意すべし。
八白土星	S40/S49/S58	本命星中宮星と相剋にして衰運の月なるも本命南の生氣に逼迫し神佑あり吉凶相反す、諸事成功するように見えてさにあらず、一步誤れば災禍を招くから我意を張らずよく目上に相談して一步一步基礎を固め進むべし、東南は暗剣殺大凶方につき万事注意すべし。
九紫火星	S39/S48/S57	本命星中宮星と相性運気まことに盛大生氣洩刺として湧き、幸運は身近に近づき理想は実現せんとする喜びあり、歡喜鬱勃あると反動機運に遭遇することあり、よくよく注意し万事慎重に軽率盲動せぬよう注意すべし。東南は大凶破れる兆しあり。

月盤 四緑木星				年盤 九紫火星				
南				南				
暗剣殺				暗剣殺				
東		西		東		西		
3	8	1	8	4	6	7	2	
2	4	6	3	5	1	9	2	
7	9	5	五黄殺				1	6
北				北				

◆源太郎のちょっと一言

占いと計測はちょっと似ているかも?

①統計学の観点から計測する対象を決めて傾向を確認します。

②傾向を確認した後、その後起きうる現象を予測します。

③一番重要なのは、統計・予測を元に自分自身で判断して次の行動をとるということです!

どんなに有名な手法でも、現場に即していない方法を用いるのは意味がありません。

自分に合った計測を行い、現場に即した判断をしてください。

占いも同様で、あくまでも参考意見として自分自身で判断して次の行動をしたいと思います♪

お知らせ

3月31日(tue)にWACATE-Magazine vol.4 発行します!(たぶん)

内容盛りだくさんになってまいりましたWACATE-Magazine。

次号もいろいろ考えています!

次号の特集は「ソフトウェアテストセミナー参加報告!」を予定しています★

勉強会のレポートなども出来たら上げます♪

来たれ! 投稿戦士!

WACATE-Magazine では “ソフトウェアテストや品質に関する記事” を常に募集中です。
「我こそは!」とか「俺の話を聞け!」という方は奮ってご投稿ください!

来たれ! 投・稿・戦・士!!!

- ・WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。
※ノーギャラです。
- ・投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。
- ・特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。
- ・レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などは行いません。
- ・単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を読んだ、イイ感じな文体や内容でお願いします。
- ・公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚・悟・完・了!!な方は
WACATE-Magazine 編集部「magazine@wacate.jp」
まで、是非ご連絡ください。

折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。
楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非ご協力いただければ幸いです♪

☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- ・書籍情報(オススメ書籍情報も可)
- ・イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- ・勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- ・オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- ・スイーツ情報(甘いものならなんでも。イカス!やつで。)

などなど、お待ちしております♪

編集後記

いいんちゅ★3月はサイゴンにレミゼ、歌舞伎も観に行くよ〜!
ぶくいんちゅ★第3号の校了後は、博多座までミスサイゴン観劇ツアー。メイっばい楽しめます!w
かセツ★3月~4月はテスト技法の勉強会やります!レポートも載せたいなあ+
かもんじ★JSTQB 受験会場にて、WACATE で一緒だった方がいないかキョロキョロしてました(笑)
コヤマン★やっぱり温泉はいいですね♪さて、次はどの船を襲撃しに行こうかなあ…w
あらかみ★もうすぐ花見の季節ですねえ〜。今朝、早咲きの桜を見ました。
ちょっと春を先取りしてハッピーな気分です♪

★あくづい★
2009/3/3(tue)はっころ
WACATE-Magazine へんしゅろび
Magazine@wacate.jp
<http://wacate.jp/Magazine/>